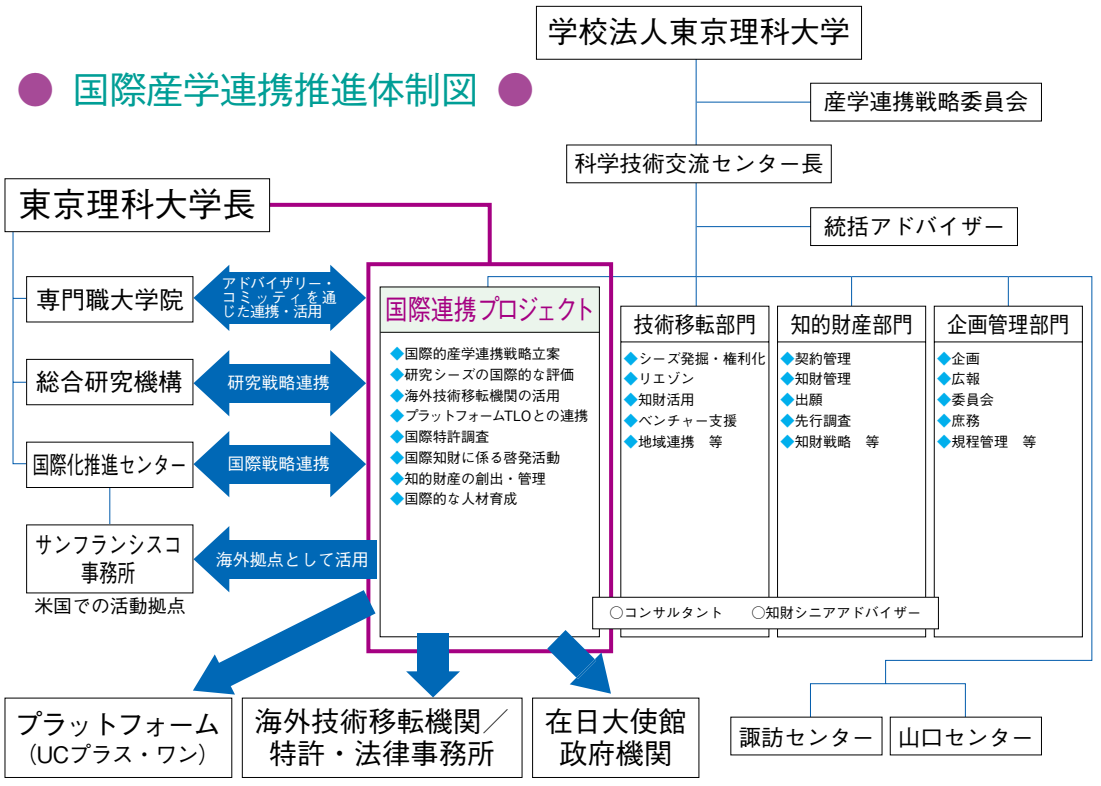
本学「国際的産学官連携」機関に

文部科学省の「産学官連携戦略展開事業」



藤本 隆・科学技術交流センター長

本学は、今年度より文部科学省が公募した「産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）」の「国際的な産学官連携活動の推進」機関として採択を受けました。この事業は、イノベーション創出の原動力である大学等の知的財産戦略などが持続的に展開されるよう、主体的かつ多様な特色ある取組を国公私立大学等を通じて支援し、産学官連携活動全体の質の向上を図ることを目的とするものです。実施組織である本学科学技術交流センターは、産学官連携の窓口として、主に学内における産学官連携活動に係る体制の構築および基盤の整備を実施してきました。七月から同センター内に学長直轄の「国際連携プロジェクト」を設置し、海外展開事業の強化を図っています。今後、どのような活動を構想されているのか、藤本隆・科学技術交流センター長にインタビューしました。

「知財」取組 評価される

藤本隆・科学技術交流センター長に聞く

―「産学官連携戦略展開事業」は、どのようなねらいで実施される事業なのですか。

藤本 文部科学省では、二〇〇三年度から「大学知的財産本部整備事業」を実施してきました。これは、大学等における知的財産の創出・取得・管理・活用を戦略的に実施する体制の整備を支援する事業です。全国で三十四件が採択されており、本学もその一校です。この事業は二〇〇七年度に完了しましたが、大学等の知的財産戦略をさらに持続・進化させるために、二〇〇八年度に新規導入されたのが「産学官連携戦略展開事業」です。戦略展開プログラムとコーディネート・プログラムがあり、前者はさらに、本学が採択された「国際的な産学官連携活動の推進」のほか「特色ある優れた産学官連携活動の推進」「知的財産活動基盤の強化」の三つに分かれています。

―「国際的な産学官連携活動の推進」に採択されたのは、トップクラスの大学（注1）ばかりですね。

藤本 十七大学が採択されましたが、そのうち私学は早慶と本学だけです。その分、責任の大きさも痛感しています。

―本学が採択された要因は何だとお考えですか。

藤本 本学では「大学知的財産本部整備事業」に採択されたことを受けて、二〇〇七年四月から、知的財産部門とTLO部門を包含した科学技術交流センターに再編するなど、知的財産の創出から活用までを円滑に推進できる体制を構築しています。それが高く評価されたのだと思います。二〇〇七年度中に外部研究資金総額十二億円を獲得するなど、数値目標も達成しています。

ただし、これまでは国内を対象とした活動が主体であり、国際連携を組織的に進める体制にはなっていなかったことも確かです。今回の採択によって、基本特許の国際的な権利取得の促進、海外企業からの共同研究・受託研究の拡充、国際的な知的財産人材の育成・確保など、国際的な産学官連携体制が大幅に強化される予定で、これは本学にとって大きなチャンスでもあると考えています。

理工系の強み生かし展開

―採択された他大学と比較して、どこに強み、特色を見出していきたいとお考えですか。

藤本 本学の最大の特色は理工系総合大学であり、理工系のほぼすべての分野の研究者を擁していることです。分野横断型のプロジェクトが編成しやすいというメリットがあるわけで、それが大きな強みにもなるはずです。

―重点的に取り組む分野は想定されているのですか。

藤本 最初から手を広げすぎてもうまくいくとは思えません。まずはライフサイエンスとナノマテリアルを重点分野として、その市場が大きいアメリカをターゲットにする構想を持っています。この重点分野・エリアで成功モデルを構築することによって、他分野・エリアへの拡充もスムーズにいくと考えています。

―次に、推進体制を教えてください。

藤本 実務運営の中核となるのが、学長直轄のプロジェクト組織「国際連携プロジェクト」＝図参照＝で、マネージャー、コーディネーター、アシスタントコーディネーター各一人を配置しています。もちろん、三人で運営するのは困難ですから、科学技術交流センターのスタッフも適宜サポート役を務めています。

また、サンフランシスコ事務所に専門職員が一人常駐しています。すでに教育・研究両面で交流を進めているカリフォルニア州立大三校とオハイオ州立大（UCプラスワン）や現地企業との連携の窓口の役割を担っています。UCプラスワンには、アメリカのTLOの仕組み、ノウハウなどの情報提供や、現地企業との橋渡しなどを期待しています。

＊2面につづく

〈注1〉「国際的な産学官連携活動の推進」に採択された大学＝北海道大学、東北大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、東京農工大学、新潟大学、山梨大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、広島大学、九州大学、奈良先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学、早稲田大学、東京理科大学

〈注2〉NEDOフェロー＝独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が雇用した上で、受入れ機関に派遣し、産学連携を担う人材を養成する制度。

塚本理事長、松浪文科副大臣と対談

「科学創造立国をめざして」をテーマに

対談する塚本理事長（左）と松浪文科副大臣（右）

七月七日（月）、神楽坂キャンパスで松浪健四郎文部科学副大臣と本学の塚本理事長との対談が行われました。本学が発行する科学教養雑誌『科学フォーラム』の「巻頭対談」として行われたもので「科学創造立国をめざして」というテーマで、理科教育や基礎研究などに関して議論が交わされました。詳細は『科学フォーラム』九月号に掲載されていますが、購読ご希望の方は、広報課までご連絡ください。

【購読申し込み】
03・5228・8107

主な内容
8面 補職等の異動／新任教員／8氏に名誉教授
7面 文科省支援に本学の2プログラム／学費
6面 特集「5人の最新海外留学体験レポート」
5面 長万部サマースクール真夏のマドンナたち
4面 就職活動状況／創立125周年記念寄付者芳名
3面 山口・諏訪東京理科大学ニュース
2面 「理大・人」／ホームカミングデーお知らせ

東京理科大学報
発行所
東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学
学報編集委員会
☎03-3260-4271
http://www.tus.ac.jp/
（年4回発行）

年々歳々

いつのことからか、教科書や専門書の書籍の厚みは、薄くなり軽くなっている。哲学者バートランド・ラッセルが人柄を褒める物理学者マックス・ボルンと当時の助手で現在も現役の教授であるエミル・ウォルフとの共著の〝光学の原理〟の書籍は、日本語訳が三冊の分冊になるほどのボリュームであり、光学、フォトニクス分野で仕事する際の必読の教科書、専門書である。因みに、マックス・ボルンの孫娘は、歌手のオリビア・ニュートンである。▼ITの進歩により、ラップトップ・コンピュータの軽量化が進み、出張先にてワイヤレスLANに繋ぎ世界各地の同業の仲間との連絡や論文をブラウズすることができる時代である。▼コンピュータ・ゲーム機が無いころは、子どもは手作りで遊ぶことが普通であった。竹ひごをろうそくの火であぶって曲げ、ゴム動力の飛行機を作り数分ぐらい飛行させて熱中する遊びがあった。理科的な遊びが豊富で理科嫌いの子は少なかったように思われる。豊かになり、パソコンが置かれその習熟度が高くソフト思考である一方で、〝もの作り〟の基本の論理的な勉強が手薄に成ってきているように思われる。ソフトが無ければ物は作れないし、ソフトも重要である事は自明である。教科書の薄さが、論理的な勉強の少なさを反映しているとすれば、インテンシブに時間をかけ計算しながら専門書を読む訓練が必要かと思われる。（Y・I）

教学関係主要役職者（10月1日付）

平成二十年十月一日付で補職等の異動が発令され、大学院理工学研究科長に工業化学科の小中原猛雄教授、専門職大学院総合科学技術経営研究科長にMOTの伊丹敬之教授が新たに就任しました。

十月一日現在の主な補職等は次のとおり。

■学部

【理学部第一部】学部長　橋本　巖教授（任期中）
【理学部第二部】学部長　佐藤　毅教授（任期中）
【工学部第一部】学部長　真鍋　恒博教授（再任）
【工学部第二部】学部長　増井　典明教授（再任）
【薬学部】学部長　大島　広行教授（再任）
【理工学部】学部長　大矢　雅則教授（再任）
【基礎工学部】学部長　福田　博教授（任期中）
【経営学部】学部長　原田　昇教授（再任）

■大学院

【理工学研究科】研究科長　小中原猛雄教授（新任）
【生命科学研究科】研究科長　安部　良教授（任期中）
【総合科学技術経営研究科】研究科長　伊丹　敬之教授（新任）

■その他の補職等

【長万部教養部長】藤井　志郎教授（任期中）
【学生部】学生部長　理二　新妻　弘教授（再任）
神楽坂地区学生部長　工一　庄野　厚准教授（新任）
野田地区学生部長　理工　平川保博教授（任期中）
久喜地区学生部長　経営　大島邦夫教授（新任）
【図書館】図書館長、野田図書館長　基工　宮本岩男教授（再任）
神楽坂図書館長　理一　古川猛夫教授（任期中）
久喜図書館長　経営　東邦仁虎教授（新任）
長万部図書館長　基工　高井　茂教授（任期中）
【総合研究機構】機構長　理一　福山秀敏教授（任期中）
【生命科学研究所長】生命　安部　良教授（任期中）
【情報科学教育・研究機構】機構長　基工　山登一郎教授（再任）
【学長補佐】石井　力教授（任期中）
植木　正彬教授（任期中）
瀬戸　裕之教授（任期中）
【総合研究機構】
◆研究センター部火災科学研究センター
COE教授　小林　恭一（こばやし・きょういち）
①東京大学工学部建築学科卒業②危険物保安技術協会理事③火災科学、防災科学、危機管理④博士（工学）
☆諏訪東京理科大学
【経営情報学部】
◆経営情報学科
教授　天野　輝芳（あまの・てるよし）
①京都大学大学院地球環境学舎地球環境学専攻博士後期課程単位取得満期退学②株式会社島津製作所地球環境管理室室長③環境マネジメント、環境管理会計、水環境学④経営学修士

新研究科長の2氏

理工学研究科長　小中原猛雄教授

総合科学技術経営研究科長　伊丹　敬之教授

新任教員紹介

（敬称略）

①最終学歴　②前歴　③専門分野　④学位

【薬学部】
◆薬学科
教授　廣田　孝司（ひろた・たかし）
①千葉大学大学院薬学研究科博士前期課程修了②第一三共株式会社プロジェクト推進部③薬物動態④薬学博士

教授　伊集院　一成（いじゅういん・かずしげ）
①東京理科大学薬学部薬学科卒業②株式会社田無薬品代表取締役③薬局管理学、社会薬学④博士（薬学）

教授　鹿村　恵明（しかむら・よしあき）
①昭和薬科大学薬学部薬学科卒業②有限会社グッドファーマシー代表取締役③医療薬学、薬局管理学、社会薬学④薬学士

講師　稲見　圭子（いなみ・けいこ）
①共立薬科大学大学院博士後期課程修了②慶應義塾大学薬学部有機薬化学講座講師③有機薬化学④博士（薬学）

藤本隆・科学技術交流センター長に聞く

10年後を視野に数値目標

本学の研究シーズを海外に発信

藤本隆・科学技術交流センター長

1面からつづき

――学内の他の組織との連携も重要になりそうです。

藤本　もちろんそうです。たとえば知財専門職大学院（MIP）教員の方々には、海外の企業との契約締結の際や、万一、係争が生じた場合の対応などに関して、アドバイスを受けたいと考えています。

当然のことながら、UCプラスワンとの連携を円滑に進めるためには、国際化推進センターの協力も不可欠です。

総合研究機構に対しては、海外の企業のニーズに関する情報を積極的に提供します。新しい視点の研究が芽生える可能性が膨らむでしょう。

――それが教育・研究にもよい影響を与えることになりますね。

藤本　そう思います。国際的な連携が進行するにつれて、分野融合型のビッグプロジェクトが次々に立ち上がることは確実です。それに伴って、外部からの資金もさらに獲得しやすくなりますし、成果が学内にフィードバックされることで、教育・研究の充実にも反映されると考えています。

――すでに海外の企業などと連携する例は出てきているのですか。

藤本　本プログラムは七月にスタートしたばかりなのですが、既に二社と共同研究契約を締結し、また他一社とは現在、共同研究を目的に秘密保持契約を進めています。

――今後の課題としては、どのようなものがありますか。

藤本　まずは、本学の研究シーズを海外の企業に知ってもらうことが大切です。そこで、今年九月には、デンマークで開催された国際産学連携サミットCopenmindに八つの研究シーズを出展しました。今後も、アメリカのライセンス協会総会、バイオ展示会などに積極的に参加し、情報発信機能を充実させていきたいと思っています。また、民間の技術移転機関の協力を得て、そのウェブ上で、本学の最新研究シーズ情報を英語で発信する取り組みもスタートさせています。

もう一つの課題は、国際連携を推進する専門職員の育成です。人材は専門職大学院（MIP・MOT）卒業生の採用やNEDOフェロー（注2＝1面に掲載）を活用して確保します。今後、海外研修などを積んでもらう予定になっています。

――最後に、今後の抱負をお聞かせください。

藤本　国の事業に採択されて、国際連携を強化する組織ができたからといって、それだけで満足していてはいけません。きちんとした成果をあげているか、常に検証する姿勢が重要になります。十年後の数値目標として、技術移転の海外比率を一〇%、共同研究の海外比率を二〇%にまで引き上げることをめざしており、その実現に向けて頑張っていきたいと考えています。

（おわり）

悼

矢野　俊介元教授（工学部第一部経営工学科）平成二十年七月十八日逝去されました。七十五歳。

葛西　昭成元教授（理学部第一部応用物理学科）平成二十年八月一日逝去されました。八十一歳。

喜岡　俊英教授（工学部第二部電気工学科）平成二十年八月十五日逝去されました。六十四歳。

8先生に名誉教授称号

東京理科大学は、永年にわたり本学の教育・研究の発展に尽力され、多くの功績を挙げられた八人の先生方に名誉教授の称号を授与しました。（敬称略）

◇平成20年6月12日付

上村　洸　77歳
法人特別顧問
元理学部第一部教授

上村先生は平成三年から本学に在職され、理学部第一部学部長、理学研究科長、情報科学研究・教育機構長などを務められました。また平成十五年からは学校法人東京理科大学の特別顧問も務められ、大学の運営にも多大な貢献をされています。上村先生の専門は物性物理学で、高温超伝導のメカニズムに関する「上村・諏訪モデル」を発表し、世界的な注目を集めています。国際会議での招待講演も多く、American Physical Societyのフェローに推挙された他、日本物理学会の会長も務められるなど、学界の発展や物理教育の分野においても多大な貢献をされています。

上村　洸先生

津田　惟雄　72歳
元理学部第一部教授

津田先生は昭和五十七年から本学に在職され、理学部第一部学部長、理学研究科長、東京理科大学図書館長をはじめ数多くの役職・委員を務められました。津田先生の研究は化合物の磁性研究からはじまり、Nbの超音波吸収の研究、超伝導体―縮退半導体接合によるトンネル分光研究など多岐にわたっていますが、中でも、銅酸化物超伝導体のトンネル分光では、電子―フォノン相互作用の重要性を指摘して世界の注目を集められ、多くの国際会議で招待講演をされています。

津田惟雄先生

植木　正彬　67歳
理学部第一部教授

植木先生は昭和四十七年から本学に在職され、理学部第一部応用化学科主任、理学研究科幹事、大学院協議会委員などのほか、図書館長、学長補佐、教育開発センター長など多くの役職を務められました。植木先生の専門は有機合成化学で、大学院博士課程において開発した「酸化還元系によるペプチドの新しい合成法」で衝撃的なデビューをして以来、ペプチドの新しい合成法の研究ではリーダー的な役割を果たしてこられました。学外においても日本ペプチド学会の副会長や幹事などを務められました。

植木正彬先生

金元　哲夫　67歳
元理学部第一部教授

金元先生は昭和四十一年から本学に在職され、理学部第一部学部長、理学研究科長などのほか、学長補佐、学生部長、学生よろず相談室長、保健管理センター長、保健体育科学センター長などを歴任され、大学全体の運営および発展にも尽力されました。金元先生の専門は高分子構造と物性で、中でも高分子の極限構造と極限的力学物性に関する研究では繊維学会賞を受賞されました。また国内外の学術雑誌の編集委員あるいはEditorial Boardを務めてこられました。

金元哲夫先生

吉村　功　71歳
元工学部第一部教授

吉村先生は平成四年から本学に在職され、工学部第一部経営工学科主任、大学院幹事など様々な役職、委員を務められました。吉村先生は医薬品の開発における試験データの解析方法を統計学的に研究され、先生が中心となって作成した医薬品の臨床試験の統計についての国際的なガイドラインは、厚生労働省から「臨床試験のための統計的原則」として通知され、国際的にも高い評価を受けています。また工学研究科「医薬統計コース」設立にご尽力され、企業で実務を担っている人材の再教育・育成を進めてきました。

吉村　功先生

小口　明秀　66歳
元理工学部教授

小口先生は昭和四十五年から本学に在職され、理工学部物理学科主任、学科幹事、研究科幹事などを務められました。また、野田地区将来計画検討委員会委員長として野田地区の再開発に対する答申を取りまとめられ、野田地区の教育及び研究環境の大幅な改善に尽力されました。小口先生の専門は統計力学、物性理論で、Isingモデルや Heisenbergモデルを基にして、低次元磁性体、不純物磁性体、種々の格子上の磁性体の研究を行われました。電子系では、Andersonの直交定理の重なり積分を厳密に求めることに成功されました。

小口明秀先生

溝口　文雄　66歳
元理工学部教授

溝口先生は昭和四十三年から本学に在職され、理工学部経営工学科主任、学科幹事、研究科幹事などのほか、情報メディアセンター長、野田図書館長、国際交流委員会委員長、「理大科学フォーラム」編集委員会委員長、などを務められました。溝口先生は計算機科学研究の草創期から認知科学と人工知能を中心とした分野において活躍され、自動診断システム、学習システム、ロボットシステム、セキュリティシステムなど数多くの研究成果を挙げられました。また、新世代コンピュータ技術開発機構（ICOT）の設立をはじめ、産学連携体制の構築にも尽力されました。

溝口文雄先生

山田　善靖　66歳
元理工学部教授

山田先生は昭和六十二年から本学に在職され、その間、理工学部経営工学科主任、学科幹事などを務められました。山田先生の専門はオペレーションズリサーチ、経営科学の中心的な分野であり、特にAHPやDEAなど意思決定の評価に関する研究をテーマとして国内外で広く活躍されました。学外における学術活動としても経営情報学会会長をはじめ、著名な国際学会誌である"International Journal of Management Science"のEditorial Boardや、日本オペレーションズ・リサーチ学会編集担当理事、同編集委員長などを歴任され、同学会フェローとして現在に至っています。

山田善靖先生

文部科学省支援の大学教育改革への取組

本学の２プログラム 採択

文部科学省では各大学などにおける大学改革の取組が一層推進されるよう、国公私立大学を通じた競争的環境の下で、特色・個性ある優れた取組を選定・支援しています。このたび本学申請の二つのプログラムが新たに採択されました。本紙前号で紹介した「グローバルＣＯＥプログラム」での採択を併せ、同省における「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援」公募事業に今年度新たに採択されたプログラムは合計三つになりました。

採択されたのは「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」と「大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援（総合戦略型））」の各公募に対するものです。内容は次のとおり。

ＭＯＴ型人材育成の道開く

専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム

■概 要

本取組は、我が国の技術関連企業人の中で高度な〝ＭＯＴ型プロデューサー〟を育成するための教育方法の開発と実験を目的としています。我が国の産業の国際競争力を向上させるためには、技術と市場を的確につなぎ、科学技術の成果を産業の現場で活かすことができるプロデューサー的人材の育成が重要です。そうした人材には、新市場を創出するためのコンセプト創造力、現場で直面する様々な課題を解決するための現実洞察力、の両方が求められています。その能力育成のために、市場やＭＯＴの現場といった「フィールド」とそれらを抽象化して捉える「コンセプト」の両方を行き来してものを考える経験が必要だと考え〝「フィールド」と「コンセプト」との相互作用〟が生まれやすいＭＯＴカリキュラムを作り、その相互作用を学生達に体験させるための教育プログラムを開発します。

なお、本プログラムは一橋大学商学研究科経営・マーケティング専攻及び日本能率協会と連携していきます。

本学を国際教育研究拠点に

大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援〔総合戦略型〕）

この事業は、各大学の国際化を目指した戦略・構想に基づき、教育内容・水準の向上や学生と留学生とが切磋琢磨する環境の創出など、我が国の高等教育の国際競争力の強化や国際的通用性・共通性の向上を図る海外大学との単位互換、ダブル・ディグリーなどの相互連携、英語による体系的な教育プログラムの開発・実施など、各大学の国際化戦略に基づいた総合的体系的な取組を支援するものです。三十三件のうち六件が採択されましたが、私立大学としては唯一本学が採択されています。

■取組名「総合的な国際連携に基づく理工学教育拠点形成」

■取組単位

理学研究科、理工学研究科、薬学研究科、経営学研究科

■取組担当者

理学部第一部学部長兼理学研究科長・橋本 巖

■概 要

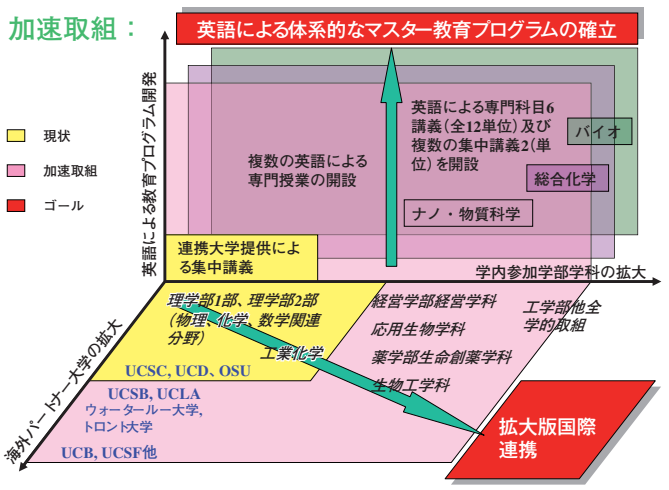
本学は、平成十九年度に国際化加速プログラム（先端的国際連携支援）に採択され、現在、米国有数の研究型大学であるカリフォルニア大学デイビス校、サンタクルーズ校、およびオハイオ州立大学の三大学と連携し、学部一年間留学プログラムと大学院ダブルマスターディグリープログラムを機能させ、大学院修士課程修了時に本学と留学先大学から二つの修士学位（ダブルマスターディグリー）を取得する取組を推進しています。今回採択された本取組の目的は、この国際連携プログラムを更に次の二つの方向に加速させることにあります＝図参照。

①水平方向加速：理学部第一部・理学部第二部・理学研究科が実施している取組を、他学部学科・研究科に広げ、全学的な取組に拡大発展させるとともに、更に海外の連携大学をカリフォルニア大学ロサンゼルス校、同サンタ・バーバラ校等に広げる。

②垂直方向加速：これら海外の連携大学の協力を得て、ナノ・物質科学、総合化学、バイオサイエンス分野で英語による体系的な教育プログラムを開発し、将来の大学院国際コースの提供を目指し、本学の国際化を総合的に加速・推進させるものです。

■目 標

本取組は、本学のビジョンである世界を先導する研究教育の情熱拠点として国際競争力のある世界最高水準の教育研究拠点の構築を支援するもので、本学の教育理念・目標を具現化する取組の一つです。本学学生が連携大学で国際化のための教育支援を受けるアプローチに加え、本学キャンパスにおいて連携大学からの交換留学生、外国人留学生、日本人学生が切磋琢磨する環境を創出することで、本学教育研究の国際的通用性の向上や国際競争力の強化・国際的認知度の向上を図るものです。



新入学生に対する学費について

平成21年度 学校法人東京理科大学理事会

私学の財源は、その大部分を学生納付金収入と補助金収入に依存しています。本学では財政基盤の安定化を図るため、外部資金導入や資産運用など積極的な収入増を図る努力をしていますが、現状では学生納付金収入は帰属収入の七二・七％を占め、本学の財政の基礎を成す最も重要な収入です。

本学の学費の改定は、「前年度までの人事院勧告による給与改定を基礎として、その都度国庫補助金、物価指数等を考慮して決定する」を算定方針とし、さらに、それらの推移・学生数・教育研究への取り組み・施設や設備の整備・財政状況等を総合的に判断したうえで、「新入学生」のみ実施してきました。

本学では、創立百二十五周年記念事業の一環として神楽坂校舎及び野田校舎の再構築計画を推進し、さらなる環境設備に取り組んでおり、財政の長期安定化を確立するためにも、学費改定により学生納付金の増収を図りたいところでありますが、父母・学生の経済的負担に極力配慮し、平成二十一年度新入学生に対する学費は、理学研究科数学専攻の実験実習費を四万五百（今回の学費改定は、平成二十一年度新入学生に対して実施されるものであり、在学生の学費は改定されません）円とすることとしました。

平成二十一年度に実施する大学院再編に伴い、研究科全体の学費体系を見直した結果、理学研究科数学専攻の実験実習費を四万五百円とすることとしました。

【1】 平成21年度 東京理科大学 初年度納付金

○２年次以降の授業料および施設設備費は、１年次と同額である
○２年次以降の実験実習費は、各専攻等により異なることがある
○薬学部薬学科の実務薬学実習費は履修時に別途徴収する

（単位：円）

学部	学科	入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
理学部第一部	数学科	300,000	825,000	230,000	0	1,355,000
	数理情報科学科				60,000	1,415,000
	物理学科					
	応用物理学科			270,000	67,000	1,462,000
	化学科					
	応用化学科					
薬学部	薬学科（6年制）	300,000	1,400,000	550,000	95,000	2,345,000
	生命創薬科学科		1,000,000	550,000	95,000	1,945,000
工学部第一部	建築学科	300,000	825,000	230,000	60,000	1,415,000
	経営工学科					
	工業化学科			270,000	86,000	1,481,000
	電気工学科			230,000	75,000	1,430,000
	機械工学科					
理工学部	数学科	300,000	825,000	300,000	38,000	1,463,000
	物理学科				60,000	1,485,000
	建築学科					
	経営工学科				79,000	1,504,000
	情報科学科				86,000	1,511,000
	応用生物科学科				92,000	1,517,000
	土木工学科				75,000	1,500,000
	工業化学科				87,000	1,512,000
	電気電子情報工学科				75,000	1,500,000
	機械工学科					
基礎工学部	電子応用工学科	300,000	825,000	330,000	75,000	1,530,000
	材料工学科					
	生物工学科					
経営学部	経営学科	300,000	720,000	230,000	34,000	1,284,000
理学部第二部	数学科	150,000	530,000	105,000	0	785,000
	物理学科				49,000	834,000
	化学科			135,000	60,000	875,000
工学部第二部	建築学科	150,000	510,000	110,000	60,000	830,000
	経営工学科				75,000	845,000
	電気工学科					

○上記の他、学生傷害共済補償費および父母会費を徴収する
○平成21年度初年度納付金は、前年度据え置きである

【2】 平成21年度 東京理科大学大学院 初年度納付金

（単位：円）

研究科	専攻	入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
理学研究科	数学専攻	280,000	700,000	240,000	40,500	1,260,500
	物理学専攻				81,000 149,000	1,301,000 1,369,000
	数理情報科学専攻				81,000	1,301,000
	応用物理学専攻				81,000 149,000	1,301,000 1,369,000
総合化学研究科	総合化学専攻	280,000	700,000	240,000	164,000	1,384,000
科学教育研究科	科学教育専攻	280,000	700,000	240,000	81,000 149,000	1,301,000 1,369,000
薬学研究科	薬学専攻	280,000	700,000	240,000	165,000	1,385,000
工学研究科	建築学専攻	280,000	700,000	240,000	149,000	1,369,000
	電気工学専攻					
	経営工学専攻					
	機械工学専攻					
理工学研究科	数学専攻	280,000	700,000	240,000	81,000	1,301,000
	物理学専攻				103,000 149,000	1,323,000 1,369,000
	情報科学専攻				149,000	1,369,000
	建築学専攻					
	電気工学専攻					
	経営工学専攻					
	機械工学専攻					
	土木工学専攻					
	応用生物科学専攻				164,000	1,384,000
	工業化学専攻					
基礎工学研究科	電子応用工学専攻	280,000	700,000	240,000	149,000	1,369,000
	材料工学専攻					
	生物工学専攻				164,000	1,384,000
経営学研究科	経営学専攻	280,000	640,000	100,000	20,000	1,040,000
生命科学研究科	生命科学専攻	280,000	700,000	240,000	165,000	1,385,000
総合科学技術経営研究科	技術経営専攻	280,000	1,120,000	300,000	−	1,700,000
	知的財産戦略専攻					

(注)①理学研究科数理情報科学専攻博士後期課程の実験実習費は半額とする
②理学研究科物理学専攻および応用物理学専攻、科学教育研究科科学教育専攻、理工学研究科物理学専攻の実験実習費欄の上段は理論系、下段は実験系を表す
③科学教育研究科科学教育専攻の２年次学費は、履修形態により異なる

○上記の他、学生傷害共済補償費を徴収する
○施設設備費は、入学年次のみ納入する（総合科学技術経営研究科を除く）
○修士：学校法人東京理科大学の設置する大学を卒業し、東京理科大学大学院修士課程に進学する者は、入学金および施設設備費を半額免除とする（総合科学技術経営研究科は、入学金のみ半額とする）
○博士：学校法人東京理科大学の設置する大学の卒業者又は大学院修士課程の修了者で、東京理科大学大学院博士後期課程に進学する者は、入学金および施設設備費を全額免除し、実験実習費を半額とする。さらに上記の者を含む博士後期課程入学者を対象に、学業等優秀と認められた者の授業料を半額免除とする制度がある

【3】 平成21年度 山口東京理科大学 初年度納付金

○２年次以降の授業料および施設設備費は、１年次と同額である

（単位：円）

学部	学科	入学金	授業料	施設設備費	合計
工学部	機械工学科	290,000	804,000	200,000	1,294,000
	電気工学科				
	応用化学科				

○上記の他、学生傷害共済補償費を徴収する

【4】 平成21年度 山口東京理科大学大学院 初年度納付金

（単位：円）

研究科	専攻	入学金	授業料	施設設備費	合計
基礎工学研究科	基礎工学専攻	280,000	849,000	200,000	1,329,000

○上記の他、学生傷害共済補償費を徴収する
○平成21年度初年度納付金は、前年度据え置きである
○施設設備費は、入学年次のみ納入する
○修士：学校法人東京理科大学の設置する大学の卒業者又は大学院修士課程に進学する者は、入学金および施設設備費を半額免除とする
○博士：学校法人東京理科大学の設置する大学の卒業者又は大学院修士課程の修了者で、山口東京理科大学大学院博士後期課程に進学する者は、入学金および施設設備費を全額免除とする。さらに上記の者を含む博士後期課程入学者を対象に、学業等優秀と認められた者の授業料を半額免除とする制度がある

【5】 平成21年度 諏訪東京理科大学 初年度納付金

○２年次以降の授業料および施設設備費は、１年次と同額である

（単位：円）

学部	学科	入学金	授業料	施設設備費	合計
工学部システム	電子システム工学科	280,000	870,000	260,000	1,410,000
	機械システム工学科				
経営情報学部	経営情報学科	280,000	740,000	200,000	1,220,000

○上記の他、学生傷害共済補償費を徴収する
○平成21年度初年度納付金は、前年度据え置きである

【6】 平成21年度 諏訪東京理科大学大学院 初年度納付金

（単位：円）

研究科	専攻	入学金	授業料	施設設備費	合計
エンジニアリングネットワーク研究科	工学・マネジメント専攻	280,000	800,000	200,000	1,280,000

○上記の他、学生傷害共済補償費を徴収する
○平成21年度初年度納付金は、前年度据え置きである
○施設設備費は、入学年次のみ納入する
○修士：学校法人東京理科大学の設置する大学を卒業し、諏訪東京理科大学大学院修士課程に進学する者は、入学金および施設設備費を半額免除とする

海外留学しませんか

本学では、さまざまな留学プログラムを実施しています。夏休み期間を利用する海外短期研修は、米オレゴン州、同カリフォルニア州、印プネ市、英マンチェスターでの四つのプログラムがあります。カリフォルニア大学一年間留学は単位も取得できるプログラムです。また、学術交流協定校派遣事業は、各国十七大学とのプログラムで、主に大学院生が専門分野を学ぶため、三ヵ月から一年間留学します。最新の各プログラムに参加した皆さんの留学体験記をご紹介します。

5人の最新体験レポート

米オレゴンサマープログラム 31日間

将来への大きな夢が生まれた

工研・電気・修2　太田　洋平

私はオレゴンサマープログラムに参加し、多くの刺激を受け、貴重な経験ができたと思います。

オレゴン州はアメリカの西海岸沿いにある自然が豊かな州です。私が滞在したポートランド市は緑の多い美しい街で、周りを見渡せば野生のリスが無邪気に遊んでいる姿も多々見ることができます。そして、私が通った州立大学（PSU）は、南北に長い緑深い公園の両サイドに学舎や関係機関のビルが続き、キャンパス内を誰もが自由に散歩できる、そんな素敵な場所でした。

私がこのプログラムに参加した動機は、英語を学ぶきっかけを手に入れたかったからです。学部生活の中では英語に力を入れてきませんでした。しかし、大学院に進み、就職活動も終わり来年から車会社に就職する私としては「将来、エンジニアとして海外でも仕事をしてみたい！」と思うようになりました。

そこで、PSUでの英語（ESL）の授業では、恥じることを恐れず積極的に発言をし、例え難しい表現でも自分の意見が相手に伝わるまで諦めずに英語で話し、同じ理科大の生徒同士でも英語のみで意見交換をしました。また、私を受け入れてくれたホストファミリーは、一人暮らしをしている七十歳くらいのおじさんだったので、週末の二日間に日本語を全く話さなかったなど、英語を学ぶには最高の環境でした。他にも、アシスタントの方たちや、食事・買い物・小旅行などの日常会話でも多くの挑戦をしました。

手前中央が太田洋平さん

＊メモ：オレゴン州ポートランド州立大学・８月６日～９月５日・参加者43人

日本に帰ってきた今、一番重要なことは英語を学ぶことのモチベーションを下げずに日々続けていくことだと感じています。そこで、TOEICの勉強やホストファミリーとメール、研究室の留学生との会話など何度も繰り返していきます。

また、留学で出会った最高の仲間たちとも、これからなのに…という思いが強くありました。同じように思った人、逆の思いの人、どちらの経験を積んでいきたいと思います。

さて肝心の研修ですが、英語とITのプログラムでした。英語は対話形式中心の授業、ITはFLASH等の基本的な使用方法を教わりました。全て英語で説明されるため、常に必死だったことを思い出します。英語、ITの授業に共通していたことは、どの先生もわからなくても優しく振舞ってくれたことです。更に周りの研修生もいたおかげで学校に行くのは楽しかったです。それと一ヵ月の共同生活も貴重な経験でした。自分の常識が通じないこともあったけど、学生のうちに共同生活の難しさを経験できてよかったと思っています。

勉強以外にも現地学生との交流、ヨガ、民族舞踊等です。特に交流相手の家に招待してもらうなど、とても仲良くなることができました。交流した人とは帰国後も連絡を取り合っています。また世界遺産のアジャンタ・エローラ石窟遺跡も衝撃的でした。細部まで彫り刻まれているあの迫力は文章では表現できません。実物を見なくてはわからない世界です。初めて世界遺産を見たのですが、生きているうちに見る価値があると感じました。また他の国の文化や世界遺産を見て回りたいと考えています。

自分にとって、インド研修が海外に目を向けるきっかけになりました。英語やITの勉強よりも、世界の現実を見られたことも大きな収穫です。そのため周りの人にインドに行くことを強く勧めたいと思っています。今後もインドの土地、人、雰囲気全てが素晴らしかったことを忘れることはないでしょう。

Thank you so much！
I love Oregon！

インドサマープログラム 33日間

海外に目を向けるきっかけに

工研・電気・修1　品田　俊行

一ヵ月のインド研修はあっという間でした。生活に慣れるのに二週間、疲れが出てきた三週目、楽しくなってきた四週目、そしても う明日は帰国の日？　という感じです。これからなのに…という思いが強くありました。同じように思った人、逆の思いの人、どちらもいたと思います。

前列右から２人目が品田俊行さん

＊メモ：マハーラシュトラ州プネ市ソフトブリッジ教育センター・８月７日～９月８日・参加者10人

英マンチェスターサマープログラム 30日間

日本や世界を見る目が変わる

理工・機械・3年　木村　太紀

マンチェスター、一言で言えばサッカーの街。道行けば、あるのはバーやスポーツパブばかり。試合のある日は知らない人も普通に話しかけ、チームが勝った翌日は先生達の機嫌もいい。

授業初日、うちのクラスはトルコ人二人、スペイン人三人、台湾人一人に日本人九人。

会話が全然聞き取れない。落胆しながら、寮に帰って同じクラスの友達と必死に宿題を済ませた。宿題の量はクラスによって違って、夕食の後は部屋で飲んだり、コートでサッカーをしてたり、人それぞれ。

一週間もすれば英語に耳も慣れるけど、ただ聞くだけで終わって、言いたいことが言えなくてもっとしゃべりたいって気持ちが強くなってくる。三週目あたりから、ようやくがむしゃらだけど少しずつ自分の言いたいことをいえるようになってくると、外国人とも一緒にご飯や遊びに行けるようになってどんどん楽しくなっていった。

一カ月で英語力がどれだけ伸びるだろうかとか初めは考えていたけど、大切なのはそんなことじゃなかった。今まで興味のなかったサッカーの魅力をたたきこまれたり、バスの多さやバイクが一台も走ってないことに驚いたり、ポリ袋が有料だったり、スーパーが全部十時にはしまったり、レストランでチップが必要だったり。

日本に帰って来たときに「あ、日本って変な国だな」って思えたこと。今まで当たり前だったことが当然ではなくなったこと。自分の世界が確かに変わったと思えた瞬間が、そこにはあった。

右から５人目が木村太紀さん

＊メモ：グレートマンチェスター州マンチェスター大学・８月３日～９月１日・参加者27人

独ヴィスマール専門大学 93日間

理解し合うことの大切さ学ぶ

基工研・電子・修2　手島　飛鳥

私は昨年、交流協定派遣事業を利用しドイツのヴィスマール専門大学に留学しました。本事業は学生が主体的に留学先、期間、研究内容、宿泊施設など全てを直接現地の大学と決定します。他の留学プロジェクトとはこの点が大きく異なっており、学生の留学に対する強い意志の上に実現するものです。本事業への参加目的は世界で所属を持ち、特に研究をするということが自分にとってどういうことか、または自分がどう実践していくかを試すということです。

実際、現地ではオプティカルセンサーネットワークの研究を任され、特に私は実験システムの構築を担当し、数種類の実験装置のプログラム制御を行いました。当初この研究内容についての知識もここで扱うプログラム言語の経験もほとんど無く、一からのスタートとなりましたが、求められた内容を達成することができました。それはまず扱う対象に興味を持ち、毎日必ず教授と経過、方法論について専門的に議論し、学んだこと教わったことを詳細にノートに記録するということです。

左端が手島飛鳥さん

＊メモ：学術交流協定校派遣事業の一つ・昨年11月１日～今年２月１日

こうしたことから、世界で研究するということは実は特別なことではないということを経験を通し、知ることができました。このように、この留学は日本と異なる環境で研究を行うということに意味があり、貴重な経験をすることができました。また、ここでは世界中の人間と交流をし、互いに理解し合えることに興奮しました。そして多くの人との出会い、経験が私の基礎となっています。自分の考えを持ち、議論し、人とは、日本にいる友人や同じ理解し合う能力は将来が求ような境遇の留学生の友人達の頑張っている姿が励みめるものであり、その重要になりました。性を深く理解しました。

米カリフォルニア大学 1年間

かけがえのない多くの出会い

理1・応化・3年　平原　綾乃

自分で動かないと何も変わらない、それを今強く感じています。この留学プログラムを通して、英語ばかりでなく自分の生活スタイルを根本から見直すことになりました。

アメリカに来た当初は、目に映るもの全てが新鮮でした。家中に飛び交う英語の会話も、広大な太平洋も、町を歩く人々も、今までの生活で見てきたものとはまるで違っていて、自分がその社会の中で生活していくことが信じられませんでした。サンタクルーズの生活にはすぐに慣れました。大きな理由としては、ホストファミリーが親切でよく話しかけてくれたことだと思います。

印象に残っているのは、私が夕飯を外で済ませて帰る途中、ホストマザーからもらった電話での会話です。私が外食のことを先に彼女に伝えていなかったことを謝ると、彼女は笑って「そんなことは気にしないでいいのよ。私達はそんなフォーマルな仲じゃないんだから」と答えてくれたのです。その時彼女が私をまるで家族の一員のように受け入れてくれていることを感じ、胸が熱くなりました。

一度、大きなスランプを経験しました。他人同士の会話が聞き取れても会話の矛先が自分に向けられた途端に頭が真っ白になって、英語ばかりか日本語も出てこないという状態がしばらく続きました。そんな時、日本にいる友人や同じ特に研究をするということが自分にとってどういうことか、または自分がどう実践していくかを試すということです。

実際、現地ではオプティカルセンサーネットワークの研究を任され、特に私は実験システムの構築を担当し、数種類の実験装置のプログラム制御を行いました。当初この研究内容についての知識もここで扱うプログラム言語の経験もほとんど無く、一からのスタートとなりましたが、求められた内容を達成することができました。それはまず扱う対象に興味を持ち、毎日必ず教授と経過、方法論について専門的に議論し、学んだこと教わったことを詳細にノートに記録するということです。

後列右から３人目が平原綾乃さん

＊メモ：サンタクルーズ校・３月29日～来年３月・派遣８人（同大デイビス校にも６人）

また語学学校での、数多くの友人との出会いはかけがえのないものになりました。日本にいた頃は、大学を卒業したら就職するか大学院に行くかの二者択一だと当然のように思っていました。

こうやって自分が興味をもつものに挑戦できるというのは、大変幸せなことだと思います。自分を支えてくれるたくさんの人によい報告ができるように、これからも目標に向かって努力を惜しまず、仲間と共に充実した日々を楽しみたいです。

サイエンス体験 43人・4日間

長万部サマースクール「真夏のマドンナたち」

理系志望の女子高校生支援プロジェクト

八月八日（金）～八月十一日（月）、北海道の長万部キャンパスで「真夏のマドンナたち 長万部サマースクール二〇〇八」を実施しました。全国から集まった四十三人の女子高校生が本学女子学生と寮生活を共にし、四日間を長万部の地で過ごしました。

このイベントは、文部科学省「女子中高生の理系進路選択支援事業」に採択された本学の「科学のマドンナ」プロジェクトの一環として開催されたもので、女子高校生の皆さんにサイエンスの魅力を知ってもらおうと、実験とフィールドワークを中心としたサイエンス体験企画です。

実験「レオロジー（物質の変形と流動に関する科学）」では、片栗粉と水を使い、それが固体にも液体にも変化する様子を体験。

液体？の上を走る…レオロジーの実験

11／23「秋のマドンナたち」開催

長万部サマースクールに続き、十一月二十三日（日）には野田キャンパスで「秋のマドンナたち Research Professional〈」が行われます。申し込みは十一月十四日（金）まで。詳細、お問い合わせ先などはホームページをご覧ください。

http://www.tus.ac.jp/madonna/nodahtml

色と光をテーマにした実験では、日常的に手に入る道具から最新鋭の機器まで活用して、色と光の関係を学びました。ものづくり実験では、はんだづけを体験しながら「雨降り警報機」を作製しました。

有珠山と昭和新山を巡るフィールドワークでは、火山による地形形成の様子や火山から噴出した岩石の特徴を調査しました。

またゲスト講演として、山田メユミ氏（㈱アイスタイル代表取締役 @cosme主宰）による「起業～サイト立ち上げまでの道のり」が行われた他、天体観測、飯生神社例大祭への参加など、北の大地ならではの企画が実施されました。

参加した高校生からは「大自然の中で多くの実験やフィールドワーク体験ができて本当に良かった」「他の地域の高校生や大学生・大学院生との交流がとても新鮮でした」「普段はなかなかできない天体観測や地域との交流ができたことが嬉しかった」などのコメントが寄せられました。

次に参加した三人の感想文を紹介します。

マドンナちゃんがステッカーに

本学のイメージキャラクター「マドンナちゃん」が手のひらサイズのステッカーになりました＝上。ノートやファイルに貼ったり、コースター、ワッペンにしてはいかがですか？ご希望の方は広報課まで。☎03・5228・8107

長万部サマースクールに参加して

有珠山踏査に感銘

広島のAさん（高2）

私が今回の「長万部サマースクール二〇〇八」に参加しようと思ったのは、東京理科大学に通う大学生の活動や雰囲気に触れ、生の声を聞いてみたかったからです。実際に体験すると、おどろくようなことばかりで、新鮮な気持ちで学ぶことができました。

特に印象に残ったのは、フィールドワークでした。

初めてみる有珠山は、広島県の山とは全く違っていて、そこで初めて有珠山が世界でも有名であることを知りました。有珠山は肌山で煙が出ていました。溶岩はねばり気が強く、学校で習った溶岩のことを活用できてうれしかったです。

私たちが泊まった寮はきれいと聞いていましたが、本当に設備が整い勉強しやすい環境でした。大学生がレポートを書いている姿は、ここでしか見られないなと思いました。今回の体験は、学生の活動などを知ることもできましたが、それ以上に、積極性や行動力の大切さも学べたと思います。

楽しかった4日間

岐阜のCさん（高1）

これほど充実した四日間は、生まれて初めてです。私は小さい頃から科学が好きで、今のところ将来は薬剤師になりたいと思っています。それで理系の大学見学がしたいと思っていたところこのサマースクールを知り、参加しました。

来て早々驚いたことは、先輩の親切さです。私の泊まったフロアの担当の先輩方はとても優しく、いつも色々と気遣って下さり、おかげでとても楽しい四日間になりました。本当にお世話になりました。

催しでは、化学実験が楽しかったです。水とデンプンを混ぜるだけでしたけれど、私は初めてダイラタンシーという現象を見て、とても面白い！と思いました。大きなタライで思い切り楽しい体験ができて、初心にかえりました。科学は身近にあるということを、改めて教えられた四日間でもありました。

一人旅にわくわく

静岡のBさん（高2）

私にとってまず最初の課題は、長万部に無事に着くことでした。初めての一人旅にわくわくしながらも、不安でいっぱいでした。長万部駅に着き、理科大生の方々に迎えられ、無事に着いたのだと安心しました。

二日目に登った有珠山は、噴火の被害が生々しく残っていて自然の恐ろしさを学びました。でも、講演をしてくださった方は噴火を「綺麗」と言っていて、そういう捉え方もあるんだなと思いました。

天体観測では、見たことのない無数の星々が見えて本当に感動しました。流星も見られて大満足でした。

三日目の水と片栗粉でのダイラタンシー（粘性現象の一つ）の実験では、テレビで見るのと同じように液体の上を走ることができました。あの現象は、本当に不思議だなと思いました。とても面白かったです。

あっという間の四日間でしたが、とても充実した時間が過ごせました。本当にありがとうございました。

産・学・官 連携と知財のひろば ⑰

Innovation Navigator

環境改善の商品・技術開発

〈学内発〉新ベンチャー企業紹介 ② アクテイブ㈱

本年四月、新たに三社の本学発ベンチャー企業が発足し、前号から三回シリーズで新規ベンチャー企業を紹介しています。二回目は理工学部工業化学科・阿部正彦教授の樹脂改良剤や食品調味料の研究・開発・製造・販売を行う「アクテイブ株式会社」です。

＊

アクテイブ㈱は、理工学部工業化学科の阿部正彦教授、湯浅真教授、酒井秀樹准教授が中心となって平成十九年に設立したベンチャー企業で、超臨界逆相蒸発法（有害物質を用いずに効率良くリポソームを製造する方法）で製造したリポソームを用いた樹脂改質剤や食品など、リポソームのドラッグデリバリーシステム以外への応用・商品化を行っています。

10月に発売された易分解性疑似餌

現在、樹脂改質剤は、易分解性の釣り用疑似餌（十一月発売予定）、焼却時のCO_2発生量を低減したショッピングバッグ（ＰＥ製袋）、多層フィルム用相溶化剤（ＰＰ／ＰＥＴの多層フィルムを相溶化させリサイクルが可能となる）、高強度化で原料削減・ガスバリア性・ＵＶカット機能を持たせたニュウＰＥＴボトルなど環境を考えた商品の開発を行っています。

さらに食品分野では、リポソーム技術を応用してより塩辛く苦味の少ない食塩を開発し、用途を含めて超臨界逆相蒸発法リポソームの新たな可能性を探っています。さらに今年度からは、総合研究機構研究部ものづくり・先端計測科学研究部門の堀越智講師と理工学部の陳秀琴客員教授を加え、汚染水浄化へのマイクロ波の利用、電磁波吸収材料として有望なカーボンマイクロコイルの安価な大量合成法の開発を進めています。

＊アクテイブ㈱

▽創設：平成十九年八月二十三日▽所在地：千葉県野田市山崎２６４１、東京理科大学内▽代表取締役社長：長濱正光▽事業内容：樹脂改良剤の研究・開発、製造・販売 等

来場者数 記録更新

オープンキャンパス'08

神楽坂 野田

光を使って水から水素クリーンエネルギーを作る

今年も神楽坂、野田キャンパスでオープンキャンパスが開催されました。両キャンパス共に昨年を上回る過去最高の来場者数を記録し、神楽坂は六百四十人増の七千百六十五人、野田は六百六十人増の三千七百三十四人と、合計約一万一千人近い方が来場されました。

近年のオープンキャンパスは高校一、二年生の来場者が増加傾向にあります。そのため理工系大学を目指す方を支援することをひとつの目的として、研究室見学や科学実験等を充実させて理工系分野の魅力を伝え、その裾野を広げる工夫が必要です。

今年は見学可能な研究室をさらに増やし、より参加者のニーズに合わせたイベントとなりました。研究室見学や模擬実験の人気が高く、満員となるイベントも数多くみられました。

今後さらに、来年度入試会場として新たに設けられた広島で、出張オープンキャンパス「東京理科大学フェアＩＮ広島」を十月十一日（土）に開催するほか、十一月八日（土）に久喜キャンパスにおいてオープンキャンパスを開催します。また、十一月二十二日(土)～二十四日（月）の「理大祭」期間中には進学相談会も同時開催しますので、多くの皆さんのご来場をお待ちしています。

こころの健康 ⑪

自分の中の〝資質（リソース）〟を探そう

精神分析学者エリクソンによると、青年期の発達課題とは「自我同一性（アイデンティティ）の確立」。つまりは、自分が何者であるのか、社会にとっての役割は何であるのかをはっきりさせることとなります。

よろず相談室で学生さんのお話をうかがっていると「自分はどんな人間なのだろう？」「自分の将来は？」と、自身と向き合う姿に触れる機会が非常に多いのですが、そんな中で、唯一、私が残念に感じていることがあります。それは、知的資質に恵まれていたり、真面目・誠実であったりと、それぞれがすばらしい資質を持っているにもかかわらず、それを認めることができず、他人と比べては「自分には何の取り柄もない…」と語る学生さんが多いということです。

心理療法の一種であるブリーフセラピーの考え方に「リソース」というものがあります。リソースとは、その人が持っている資源・資質のこと。その人の能力・興味関心といった内的リソース、その人の家族・友達といった外的リソースの両方が含まれます。リソースは一人ひとり違っているもの、誰にも必ずあるもの、まさにそれが個性、その人らしさだと思います。

他人と比較すると、自分に無いものにばかり目が行きがちですが、無いものを嘆くのではなく、自分の中にあるものを探すことが大事。自分の中にどんなリソースがあるのか実感してこそ、初めて未来が描けるのではないでしょうか。

「自分のリソースって何だろう？」と、改めて考えてみませんか。

（野田校舎よろず相談室 カウンセラー・杉村 夕）

景気後退も順調

就職活動　本学への求人増勢

サブプライムローン問題と米国の金融危機、原油を中心とする資源価格の高騰など、世界的な景気後退によって、経済環境は不透明感を増しています。一方、新卒者に対する企業の採用意欲は高水準に推移しつつも「質・量」の確保から再び「質」の重視へと軸足をシフトしつつあります。

本年度の就職状況は企業の採用活動が一段と早期化し、会社説明会は一月下旬が山となり、選考の時期は三月下旬から四月中旬に集中し、内々定出しは四月下旬から五月上旬がピークとなりました。自由応募のウエイトが高まる中、複数の企業から内々定を得る学生が増加しています。その反面、企業の採用基準は下がっておらず、内々定を獲得できる学生とできない学生の二極化が進んでいます。

本年度、本学に対する求人件数は別表のとおり五千八十五件です。

これを業種別にみると、電機、輸送用機器（自動車）、機械、精密、非鉄金属業からの求人が増加しています。都道府県別の求人（別表）については、大都市圏で総じて増加していますが、地方では地域間にばらつきが生じています。これは終盤を迎えようとしているような就職状況下、多数の学生から採用内定の報告があり、本年度の就職戦線は終盤を迎えようとしています。

教員採用状況については首都圏を中心に「団塊世代の大量定年問題」の対応から教員の需要が増加し、教員採用試験受験者の合格率は年々高くなっています。

「理学の普及を以って国運発展の基礎となす」は本学の建学精神です。希望者はこの時期を逃さず本学の伝統である教育界に多数進んでほしいと思います。

次年度、新たに就職活動を迎える学生諸君に対して六月上旬の「第一回進路ガイダンス」に続いて、十月から「第二回進路ガイダンス」を実施します。また等の実施を予定しています。これらの行事に積極的に参加し、就職（進路）への意欲を高めてください。

「業界・企業研究セミナー」、理窓企業人会による会社説明会（本学卒業生が社長・役員をしている企業を招聘して行う）や「就職マナー講習会」「就職面接講習会」「SPI検査」「エントリーシート対策講座」

就職課・就職支援室は、就職活動における悩み事の相談、キャリアにおける進路相談やエントリーシート・履歴書の添削なども行っているので、大いに活用してください。

平成20年度 求人件数（9月25日現在）

● 産業分類別

農林・水産	3
鉱業	4
建設	232
設備工事	138
建築（土木）設計	99
食料品	75
繊維・衣料	24
木材・木製品・家具	26
パルプ・紙・紙加工	25
新聞・出版	34
印刷・同関連産業	25
化学工業	114
医薬・化粧品	79
石油・石炭製品	31
ゴム・皮革製品	20
窯業・土石製品	41
鉄鋼	29
金属製品	78
非鉄金属製品	40
一般機械器具	254
精密機械器具	123
電気機械器具	417
輸送用機械器具	133
その他の製造業	62
商社	31
卸・小売	448
百貨店・スーパー	68
自動車販売	27
外食産業	57
銀行・信託	29
金庫・信用組合	47
証券・商品取引	27
保険	22
不動産業	66
運輸・通信業	88
電気・ガス・水道	17
※1 教育：大学	22
教育：専任教諭	133
※2 その他の教育	33
情報産業	1,113
放送・広告	66
医療・保健業	329
学術研究機関	6
非営利団体	44
その他のサービス業	297
その他	9
合計	5,085

● 都道府県別

北海道	49
青森県	15
岩手県	12
宮城県	28
秋田県	16
山形県	17
福島県	30
茨城県	80
栃木県	58
群馬県	60
埼玉県	202
千葉県	92
東京都	2,426
神奈川県	393
新潟県	112
富山県	42
石川県	48
福井県	29
山梨県	34
長野県	122
岐阜県	39
静岡県	126
愛知県	229
三重県	20
滋賀県	20
京都府	49
大阪府	305
兵庫県	64
奈良県	9
和歌山県	10
鳥取県	11
島根県	10
岡山県	59
広島県	74
山口県	16
徳島県	6
香川県	17
愛媛県	20
高知県	12
福岡県	50
佐賀県	7
長崎県	5
熊本県	13
大分県	11
宮崎県	8
鹿児島県	15
沖縄県	14
海外	1
合計	5,085

※1.事務職員　※2.塾・予備校等教育産業
●求人件数に追加・再募集及び公務員は含まない

創立百二十五周年記念事業寄付者芳名

「創立百二十五周年記念事業募金」にご賛同いただき、ご寄付をたまわった方々のご芳名を掲載します。今回は、二〇〇八年五月一日～二〇〇八年七月三十一日までにお振込みいただいた分です。

ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきました。

【同窓生】
◇金八、〇〇〇、〇〇〇円
森野　義男様
（累計金一〇〇、〇〇〇、〇〇〇円）
◇金一、〇〇〇、〇〇〇円
沓澤慶太郎様
（累計金六、〇五〇、〇〇〇円）
◇金五〇〇、〇〇〇円
今関　重和様
（累計金八〇〇、〇〇〇円）
◇金二五〇、〇〇〇円
鈴木　弘昭様
（累計金六五〇、〇〇〇円）
◇金二〇〇、〇〇〇円
安田　滋様　匿名　一名

◇金一五〇、〇〇〇円
今村　肇様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
田中　章皓様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
◇金一二五、〇〇〇円
小野　具彦様
（累計金三七五、〇〇〇円）
澤井　伯郎様
◇金一〇〇、〇〇〇円
秋山　賢一様
秋吉　崇弘様
（累計金一一〇、〇〇〇円）
新井　久喜様　安藤　栄一様
石井　清一様
（累計金四〇〇、〇〇〇円）
市橋　顕譲様　井村　源作様
牛澤　賢二様　内田　正一様
大久保隆二様　岡田　政則様
金子　重雄様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
葛田　正雄様
（累計金一四〇、〇〇〇円）
坂下　丈太様　迫　四郎様
汐崎　郁代様
（累計金一五〇、〇〇〇円）

篠澤　繁樹様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
高木　真人様
（累計金四〇〇、〇〇〇円）
高松紀三郎様　武田　明子様
竜田　博様　岩山　統様
田中　理房様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
都祭　勘司様　中村　正様
長谷川智哉様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
平田　一枝様　平山　紘二様
福田　善政様
（累計金六〇〇、〇〇〇円）
藤原　猛様　古川　秀穂様
保田　勝由様
三浦　康男様
（累計金三五〇、〇〇〇円）
村田　光雄様　村松　正孝様
本橋　嘉信様
山成　喜一様
（累計金三〇二、〇〇〇円）
吉井　達招様　匿名　四名
◇金七〇、〇〇〇円
石井　智様
（累計金三三〇、〇〇〇円）

◇金五〇、〇〇〇円
赤堀　宏様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
新井　英夫様　池田　嘉博様
石神　一郎様　岩山　統様
大峯　凱夫様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
岡村　希光様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
岡本　公爾様
（累計金一、〇五〇、〇〇〇円）
鍛冶　隆様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
加藤　晴男様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
加藤　正義様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
金子　栄男様
（累計金五、三五〇、〇〇〇円）
木戸岡　節様
木村　豊様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
金城　直志様
後藤　哲朗様
（累計金六〇、〇〇〇円）
小林　健一様　坂本　正紀様

佐藤　城昭様　清水　大様
（累計金四〇〇、〇〇〇円）
白井　潔様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
末光　敏行様　杉浦　雅美様
田枝　泰治様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
田岡　忠実様　高畠　正弘様
竹内　長治様
立花　宏俊様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
田中　義友様
（累計金二五〇、〇〇〇円）
永田　親清様　萩田　勝久様
針谷　晴美様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
晴山　純様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
榛澤　豊治様
藤井　正則様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
藤橋　岳様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
真鍋　紀子様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
三原　尚様　武藤　公七様
八嶋　廣様
（累計金二五〇、〇〇〇円）
山中　信秀様
山ノ井義重様　山本　英貴様
吉田　拓生様
若杉　浩榮様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）

和田　弘様　匿名　二名
◇金四〇、〇〇〇円
匿名　一名
◇金三〇、〇〇〇円
綾部　好雄様　井田　安
高野　勝雄様　髙橋　恒
仲野　利昭様
（累計金一三〇、〇〇〇
深澤　昭彦様
渡邊　一郎様
（累計金四三〇、〇〇〇
◇金二五、〇〇〇円
露木　哲司様
（累計金一二五、〇〇〇
冨士　直志様
◇金一〇、〇〇〇円
淺田　恒雄様
（累計金五〇、〇〇〇
飯泉　省吾様
今村　彰啓様
（累計金一〇〇、〇〇〇
遠藤　了一様
（累計金一二〇、〇〇〇
岡崎　英博様
（累計金一〇〇、〇〇〇
北村　哲夫様
（累計金一〇〇、〇〇〇
倉本　敏雄様
（累計金四〇〇、〇〇〇
児玉　将門様
（累計金二〇〇、〇〇〇
小林　隆司様　小林　徳
小山　繁様　白崎　永
首藤　隆様
（累計金八〇、〇〇〇

田中　如之様
（累計金五〇、〇〇〇円）
平瀬　志富様　福田　洋一様
宮野　隆様　森　定良様
矢野　裕之様
（累計金五〇、〇〇〇円）
山田　知明様
（累計金八〇、〇〇〇円）
吉田　清様
（累計金五〇、〇〇〇円）
涌井仙一郎様　匿名　一名
◇金一二、五〇〇円
吉田　和宏様
◇金一〇、〇〇〇円
赤羽　妙様
（累計金五〇、〇〇〇円）
荒井　英雄様　石井　正様
石原慎太郎様
（累計金三〇、〇〇〇円）
今村　俊明様
（累計金五〇、〇〇〇円）
岩井　直次様
（累計金七〇、〇〇〇円）
大崎多久司様
（累計金五〇、〇〇〇円）
大塚　潤様
（累計金一五、〇〇〇円）
大貫　光一様
岡村　秀時様
（累計金二〇、〇〇〇円）
岡本　貞嗣様
岡安　誠様
（累計金五〇、〇〇〇円）
鮎子様
（累計金五〇、〇〇〇円）

神田　泰様
（累計金一六〇、〇〇〇円）
鯨井　智巳様
久保　卓也様
（累計金九〇、〇〇〇円）
久保　良宏様　久保田隆史様
辰次様
（累計金七〇、〇〇〇円）
黒谷　義雄様
（累計金五〇、〇〇〇円）
黒崎　眞悦様
（累計金五〇、〇〇〇円）
小泉　隆幸様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
斉川　洋二様　齋藤　克則様
佐藤　裕治様
（累計金四〇、〇〇〇円）
佐藤　至紀様
（累計金五〇、〇〇〇円）
塩崎　閎夫様
（累計金五〇、〇〇〇円）
色摩亮次郎様　渋谷　洋子様
白石　恒之様
賞谷　孝彦様
（累計金二〇、〇〇〇円）
須子　賢二様
（累計金一三〇、〇〇〇円）
高原　光様
（累計金五〇、〇〇〇円）
瀧井　忠次様
（累計金二〇、〇〇〇円）
武田　洋一様　充様
玉置　
（累計金九〇、〇〇〇円）
勝悟様　長田　正東様
中台　中村　守様
（累計金五〇、〇〇〇円）
露崎　中村　明様
（累計金五〇、〇〇〇円）
鮫江　丈夫様　西山　隆史様
根深　得英様
根本　智博様
（累計金五〇、〇〇〇円）
橋本　泰志様　畑井　博様
波田野　浩様
（累計金五〇、〇〇〇円）
平野　輝美様
（累計金三〇、〇〇〇円）
福島　正様
（累計金五〇、〇〇〇円）
福島　寛和様　丸茂　朝冬様
三井田達雄様
（累計金二〇、〇〇〇円）
三浦喜一郎様　盛沢　正博様
森田　政彦様
矢島　絹子様
（累計金五〇、〇〇〇円）
山極　時生様
（累計金八〇、〇〇〇円）
山崎　善彦様
（累計金二〇、〇〇〇円）
山本　隆志様
（累計金四〇、〇〇〇円）
横田　憲治様　横山　瞳様
吉田　登様　匿名　五名
◇金五、〇〇〇円
小澤　基男様
（累計金五〇、〇〇〇円）
小平　勇次様
中尾　弘三様
（累計金一二、五〇〇円）
守田美代子様　幸　充輝様
匿名　一名
◇金三、〇〇〇円
堀　真治様
◇金一、〇〇〇円
酒井　薫様
◇金一、〇〇〇円

北村　義明様
（累計金一一、〇〇〇円）
【元教職員】
◇金二〇〇、〇〇〇円
福岡　正巳様
（累計金四一〇、〇〇〇円）
【父母・保証人】
◇金四〇〇、〇〇〇円
三楠　正広様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
◇金一〇〇、〇〇〇円
藤野　隆幸様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
◇金八〇、〇〇〇円
菅田　智夫様
（累計金一一〇、〇〇〇円）
【教職員】
◇金一、五〇〇、〇〇〇円
村田　雄司様
（累計金二一五〇、〇〇〇円）
◇金七〇〇、〇〇〇円
渡辺　恒夫様
（累計金二一二〇、〇〇〇円）
◇金五〇〇、〇〇〇円
澤　芳昭様
（累計金五、五〇〇、〇〇〇円）
谷　辰夫様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
直井　英雄様
（累計金二一〇、〇〇〇円）
◇金三〇〇、〇〇〇円
増田　勇三様
（累計金八〇〇、〇〇〇円）
◇金二〇〇、〇〇〇円
池田　文男様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
大竹　好文様
（累計金四五〇、〇〇〇円）
◇金一四〇、〇〇〇円
匿名　一名
◇金一〇〇、〇〇〇円
稲垣　詠一様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
梅村　和夫様
王谷　洋平様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
賀屋　秀隆様
木村　悦郎様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
児島　紘様
（累計金三、〇〇〇、〇〇〇円）
小島　尚人様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
菅原　秀章様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
竹永　満様
（累計金五五〇、〇〇〇円）
藤井　洋二様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
増保　安彦様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
匿名　三名
◇金八〇、〇〇〇円
匿名　一名
◇金七〇、〇〇〇円
匿名　一名
◇金五八、〇〇〇円
安藤　正海様
（累計金四二一、〇〇〇円）
◇金五〇、〇〇〇円
榎本　成己様　柏木まどか様
倉渕　隆様
（累計金四五〇、〇〇〇円）
小久保止己様

坂本　正典様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
澤田　利夫様
（累計金五五〇、〇〇〇円）
高　久晴様
福田　幸夫様
（累計金四〇〇、〇〇〇円）
星　肇様
（累計金三五〇、〇〇〇円）
山下　輝雄様
（累計金四五〇、〇〇〇円）
渡辺　幸人様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
匿名　五名
◇金四〇、〇〇〇円
宮本　岩男様
（累計金五五三、〇〇〇円）
◇金三九、〇〇〇円
白石　幸英様
（累計金四二六、〇〇〇円）
◇金三五、〇〇〇円
赤上　好様
（累計金四三五、〇〇〇円）
大島　博行様
（累計金五五、〇〇〇円）
鶴島　克明様
（累計金一〇〇、〇〇〇円）
◇金三〇、〇〇〇円
鎌倉　高志様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
菅井　繁様
（累計金四九〇、〇〇〇円）
田口　速男様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
竹村　哲雄様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
平塚　三好様
（累計金一三〇、〇〇〇円）
本山　好幸様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
矢島　博文様
（累計金五〇〇、〇〇〇円）
吉留　通紀様
（累計金二七〇、〇〇〇円）
匿名　四名
◇金二五、〇〇〇円
岩舘　寛大様
（累計金一七五、〇〇〇円）
久保寺勝彦様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
匿名　一名
◇金二〇、〇〇〇円
石渡恵美子様
（累計金二六五、〇〇〇円）
岡本　哲様
（累計金一二〇、〇〇〇円）
竹内　裕一様
（累計金一四〇、〇〇〇円）
正木　舞様
（累計金八〇、〇〇〇円）
◇金一九、〇〇〇円
赤澤　豊信様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
髙橋　正一様
（累計金二〇〇、〇〇〇円）
茅壁　猛幸様

（累計金二七五、〇〇〇円）
匿名　一名
◇金一〇、〇〇〇円
大木　達也様
岡　淳一郎様
（累計金九〇、〇〇〇円）
河村　洋様
（累計金五〇、〇〇〇円）
牧　高司様
（累計金三〇〇、〇〇〇円）
巻田　悦郎様
（累計金一五〇、〇〇〇円）
松田　大様
（累計金九〇、〇〇〇円）
◇金六、〇〇〇円
伊藤　享子様
（累計金九四、〇〇〇円）
関根　広様
（累計金四二、〇〇〇円）
匿名　一名
【法人】
◇金一、五〇〇、〇〇〇円
株式会社熊谷組　首都圏支店様
（累計金一〇、〇〇〇、〇〇〇円）
◇金一〇〇、〇〇〇円
株式会社シーマエンジニアリング様
（累計金五、〇〇〇、〇〇〇円）
◇金一〇〇、〇〇〇円
株式会社宮本商店様
◇金一〇〇、〇〇〇円
株式会社東京インスツルメンツ様
東洋美術印刷株式会社様
【団体】
◇金一〇〇、〇〇〇円
28年I部物理科クラス会一同様
◇金一〇、〇〇〇円
理窓スマッシュ会様
（累計金二八四、〇〇〇円）
松田　泰彦　様
【こうよう会】
◇金二一、三九八、〇〇〇円
個人　三三五名
（累計金三九、一七一、二九〇円）
○入金額
【個人】
（二九九名）
二九、九二一、五〇〇円
【法人】
（五社）
三、九〇〇、〇〇〇円
【団体】
（三団体）
一一〇、〇〇〇円
【こうよう会】
（三一五件）
二一、三九八、〇〇〇円
○寄付総額（二〇〇三年十一月一日～二〇〇八年七月三十一日）
【個人】
（五、二〇六名）
八二三、六七四、八五〇円
【法人】
（三四八社）
八二三、四六〇、〇〇〇円
【団体】
（二一七団体）
三三、〇六三、一五八円
【こうよう会】
（一、九六四件）
一三九、一七一、二九〇円

問い合わせ先
東京理科大学周年募金事務室 ☎〇三・五二二一・八一七二／FAX〇三・三二六〇・四三六三
＊e-mail:125shunen@admin.tus.ac.jp
＊URL:http://www.tus.ac.jp/125/

山口東京理科大学 News

〒756-0884
山口県山陽小野田市大学通一一一一
☎0836・88・3500（代表）
http://www.yama.tus.ac.jp/

ホームカミングデー'08

―― 11／22：多彩な催し ――
第１回開催 多数の参加を

本学は、十一月二十二日（土）に「第一回山口東京理科大学ホームカミングデー２００８」を開催します。昨年の試行と同様に理窓会山口県支部総会の開催に併せて、こうよう会山口県支部の講演会が催されます。

この度の合同開催にあたり、理窓会及びこうよう会の支部長には、実行委員会特別委員として参画いただきました。共同開催によって、東京理科大学の関係組織間の県内ネットワークが相乗的に機能し、相互の活性化と発展を促す契機になればと期待しています。

山口東京理科大学並びに東京理科大学山口短期大学卒業生の皆様方多数のご来場をお待ち申し上げます。

●日時：11月22日（土）13：00～17：00
●場所：本学
●プログラム
①総会と講演：2号館210教室13：00～14：30。参加費無料▽挨拶：東京理科大学理窓会会長・塚本桓世▽講演：「人生ものつくり」㈱ワールドメタル研究開発部長・神田勝美
②同窓歓迎会&コンサート：体育館15：00～17：00。参加費3千円▽記念撮影▽祥子コンサート▽伊藤紘二バイオリン演奏と祥子ソングのコラボレーション▽お楽しみ抽選ゲーム
＊共催：理窓会山口県支部 こうよう会山口県支部

衛星中継「南極教室」
観測隊員・浅野助教が屋外実験

衛星中継授業「南極教室」が六月二十七日（金）、南極昭和基地と山陽小野田市内全小学校（十二校）との間で開催されました。

この南極教室は、本学と山陽小野田市が包括的連携協定を結び、本学の浅野比助教が、第四十九次日本南極地域観測隊員として南極昭和基地に赴任し、研究に従事していることから実現したものです。当日は、小野田小学校をメイン会場として、市内の小学校五・六年生約九百十人を対象に行われました。

中継授業に先立ち、メイン会場では、国立極地研究所の神山孝吉教授による授業「最南端の大陸と地球環境」が行われました。神山教授は、地球環境の大切さに触れながら、南極大陸で起こる不思議な現象や南極昭和基地での活動について詳しく解説されました。

南極昭和基地からの中継授業が開始されると、児童たちは一斉に歓声を上げ、浅野隊員からの昭和基地の紹介を熱心に聞き入り、続いて、各学校の児童から次々に質問があがりました。

「南極では濡れたタオルはどうなるのか」という質問では、マイナス十八度の野外に出てタオルを振り回す実験を行い、実際に凍ることが分かると、各会場から驚きの声や拍手が沸き起こり、児童たちは南極の寒さを実感することができたようです。

最後に、各学校の児童からリレーで、浅野隊員にメッセージを送り、感動の渦の中、南極教室は無事終了しました。この日の南極教室はマスコミからの注目も高く、県内のテレビ局や新聞社から多くの取材がありました。

「南極教室」に湧く＝小野田小学校で

島根県の江の川高と交流協定

本学と学校法人江（ごう）の川学園江の川高等学校（島根県江津市：宅野幸徳校長）は、六月二十六日（木）、教育・研究に関する交流協力協定を締結しました。

今回の協定の目的は、両校が相互の教育環境と教育資源を共有し、高等学校教育と学士課程教育の連続性の確保（高大連携）によって石見地域（島根県中西部）やわが国の技術発展を担う理工系人材を育成するものです。江の川高等学校で行われた調印式では、本学関係者をはじめ、江の川高等学校、江津市関係者が多数見守る中、塚本桓世学長と宅野幸徳校長がそれぞれの協定書に署名・交換し、固い握手が交わされました。

調印を終えて握手する宅野校長左と塚本学長右

調印後の記者会見で、塚本学長は「本学は地域社会に貢献する大学として、地域のキーパーソン、リーダーとなる理工系の人材を育成する所存です。江の川高等学校の生徒さんも本学で学んだ後、この地に戻って、活躍していただきたい」と抱負を述べ、同校及び江津市からも「この協定を機に、地域の活性化につながる人材育成を図りたい」とのコメントがあり、本学に対する大きな期待が寄せられました。

保証人懇談会を開催します

◆会場・日時

山口会場：山口東京理科大学　11月22日(土)10：30～

福岡会場では10月18日(土)に「八百治博多ホテル」で、また岡山会場では10月19日(日)に「ホテルサンルート岡山」で、それぞれ懇談会を催します。

◆山口会場プログラム

- 9：30～10：30　受付
- 10：30～10：50　開会挨拶、大学現状報告
- 10：50～11：20　進路状況報告・学修について
- 11：20～11：35　質疑・応答
- 11：35～12：20　休憩・保証人との懇談会
- 12：20～14：00　個別相談（希望者のみ）

＊当日は、学園祭（竜王祭）を見学することができます

◆お問い合わせ先　山口東京理科大学　学務課
TEL：0836・88・4505
FAX：0836・88・3400
E-mail：ygakumu@admin.tus.ac.jp

諏訪東京理科大学 News

〒391-0292
長野県茅野市豊平五〇〇〇一
☎0266・73・1201（代表）
http://www.suwa.tus.ac.jp/

宇宙実験 始まる！

「きぼう」で河村教授提案の研究

本学システム工学部（東京理科大学兼務）の河村洋教授が代表研究者として準備を進めてきた実験が、宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」における最初の科学実験として、八月二十二日（金）に開始されました。

実験は、無重力下で顕著に現れる対流（マランゴニ対流）に関する研究で、東京理科大学理工学部機械工学科の上野一郎講師も協力研究者として参加しており、筑波宇宙センターから宇宙航空研究開発機構（JAXA）の運用の支援を得て、実験条件や機器操作コマンドを送信しています。

筑波宇宙センターで宇宙実験の操作をする河村教授右と上野講師左。手前の２人は参加した東京理大の院生

東京理科大学の大学院生約十人もデータの取得等に参加しており、我が国においても、院生が宇宙実験に参加出来る時代を迎えました。実験は、その後順調に進行しており、断続的に十月中旬まで続けられ、結果は、界面流体力学の進歩や、結晶成長やマイクロ流体技術に貢献することが期待されています。

目を輝かせて「夢合宿」
児童らサイエンスを楽しむ

七月二十六日（土）～二十七日（日）の両日「サイエンス夢合宿」を開催しました。諏訪地域をはじめ県内の小学校五、六年生とその保護者三十八組が参加し、キャンパス内のセミナーハウスに宿泊する一泊二日の日程で、ものづくりや実験を楽しみました。

一日目の体験コースでは、空き缶と牛乳パックを使ってごはんを炊いたり、お湯の中に結晶となる原料を入れ、その後結晶の成長の様子を観察する実験や、PCを使ってコンビニ店長を体験したりと興味あるコース作りを体験。「クッキングパラソル」の講座では簡単な反射型太陽調理器（ソーラークッカー）を作製して、蒸しパンや蒸し卵などのエコクッキングを体験しました。

夢合宿でクッキングパラソルの実験

二日目のものづくりコースでは、六グループに分かれて、本学教員や学生スタッフの手ほどきで子どもたちは燃料電池車やブーメランの様子を観察する実験や、

平成20年度父母懇談会開く

本学は十月五日（日）、懇談会で各学科の特徴や理念、学生の本学での様子についての話等を聞きました。懇談会には約二百三十件、三百四十名の父母等が参加、学部別懇談会や個別参考にする目的で今年四回目の開催。学部別に本学の現況や教務、就職状況等の説明、個別に相談会を実施しました。父母らは自然に囲まれたキャンパスの様子を体感し、学生の本学での様子や今後の進路等について耳を傾けました。

懇談会の全体会では「環境」をテーマに本学教員二名が講演、父母たちは本学での環境に関する話に耳を傾けていました。

オープンキャンパスで回折格子を通して蛍光灯を見る参加者

在校生のシンポジウムも
オープンキャンパス賑わう

本年度のオープンキャンパスは「オープンキャンパス・スペシャル」として七月二十七日（日）と八月二日（土）の二日間にわたり開催。同時期としては過去最高の五百四十六人の参加者を集め、各回ともにとても賑わいました。

模擬実験や模擬講義・体験講座の他、今年はじめて全研究室を公開し、在校生が研究内容を説明しました。また、推薦入試対策講座として「模擬面接」を企画。さらに、保護者向けに大学周辺を周るバスツアーも実施。特集企画として「在校生が諏訪東京理科大学を語る」と題するシンポジウムを開催し、壇上の在校生は自身の受験体験談や進路決定のきっかけ、大学生活や本学の特徴などを、参加者に対して熱く語りました。

理大人

北京五輪のシンボル〝鳥の巣〟のプロジェクトに参加した建築家

菊地　宏さん

北京五輪の絢爛・豪快な開・閉会式会場となった「鳥の巣」。一風変わった外見の幾何学イメージを現実化したのが菊地さんである。

スイスの建築事務所に勤めていて、辞めようとしていた時期に頼まれた。すべてが曲がっている、厄介な構造体だった。これは建築を超えて数学の分野。しかも曲面幾何学という未開の世界だった。ここで怖いのは、設計図を手で書くことも、測ることもできないことだった。建築に携わる者にとり、これはショック。コンピューターの計算を信じるしかなかった。三ヵ月間、三次元モデルと向き合い、約四万四千トンにもなる構造体と化粧部材を調整し、曲線構造のシナリオを完成させた。

菊地さんは中国へ行ったことがない。自分の作品はテレビで見た。作品には大いに自信があった。だが開会式を見て、中国人のパワーに圧倒された。建築は人が作るものだが、そこで一番重要なのがパワー。中国文明の凄さも痛感し「中国人がすべてを作ればよかった」との強い印象を持った。

スイスに四年半住んだ。「表層に対しての建築」「ミニマムな建物」が特徴のスイス建築が、フィーバーしていた最中だった。そのスイスで三十一歳の時、菊地さんは変わる。エッシネン湖に四千メートルの高さを誇って落ち込む絶壁を目の当たりにした。その断崖を手で触ると、当然ながら、堅く、動かず、超然と輝いていた。美しい建築物を作りたい。そう希求してきた菊地さんは、どんな美しい建築も自然にはかなわないと感じた。目に涙があふれた。

美しいものを創造するには、作ろうとする気持ちより、見る能力が大切だ。東京九段で生まれ育って、都会しか知らない菊地さんにスイスの自然は見る能力、感じる能力が研ぎ澄まされれば、作ることは簡単であることを、静かに語りかけていた。その発見から建築一本だった人生に、野鳥観察という趣味も加わった。

学生時代、カリキュラムを批判するなど、先生から見て厄介な学生だったと、自分を振り返る。だから立場が逆転した今、同じタイプの学生を受け入れられるゆとりがある。コンピューター出現で環境が整いすぎ、今の学生は何をしていいか分からなくなっている。学生には不便さこそ重要で、新しいことに食らいついてゆく、わがままさが、学生には求められるといって、菊地さんは笑った。（K）

★略歴（きくち・ひろし）1972年東京千代田区生まれ、96年工学部建築学科卒、98年同修士課程修了。ヘルツォーク＆ド・ムーロン建築事務所勤務を経て、現在、菊地建築設計事務所主宰、本学非常勤講師。06年「松原ハウス」で東京建築士会住宅建築賞奨励賞、グッドデザイン賞受賞。

東京理科大学学生の各種論文・研究発表等の受賞 一覧

（平20・6月～9月）

受賞者（所属・学年は受賞時）		受賞名	大会・学会名	受賞日
加藤　慎啓	理研・化学・博2	ポスター賞	European Conference on X-ray Spectrometry（EXRS）2008	6月19日
西本　一恵	基工研・材料・博3	Award for Best Student Presentation	第10回準結晶国際会議	7月11日
水澤　純基	工研・経工・修1	奨励賞（浜田教授と共に受賞）	SASユーザーフォーラム	7月24日
山口　祐貴	基工研・材料・修1	最優秀賞	第24回日本セラミックス協会関東支部研究発表会	7月24日
岩瀬　顕秀	理研・化学・博3	ポスター賞	国際学会IPS-17	7月31日
今村　真子	理工研・機械・修1	優秀賞	日本機械学会機素潤滑設計部門第14回卒業研究コンテスト	8月4日
藤木　直子	理工研・機械・修1	優秀賞	日本機械学会機素潤滑設計部門第14回卒業研究コンテスト	8月4日
関澤　央輝	理工研・工化・博1	優秀ポスター賞	日本化学会電気化学ディビジョン化学電池材料研究会第22回講演会・夏の学校	8月8日
佐藤　宏征	工研・経工・修2	最優秀論文賞	第３回Biostatisticsネットワーク	8月8日
石崎　浩司	理工研・工化・修1	優秀ポスター賞	電気化学会関東支部第26回 夏の学校	8月28日
山本　紘司	理工研・情報・博3	最優秀報告賞	2008年度統計関連学会連合大会	9月9日
谷本　　智	工研・工化・修2	優秀ポスター賞	The 14th International Conference on Solid State Protonic Conductors	9月11日

水害被災学生・受験生を支援

七月二十八日の大雨（富山県・石川県）、また八月二十八日（木）からの大雨（名古屋市・岡崎市）による災害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。本学では、右記の災害による災害救助法適用地域に居住されている在学生、受験生及びその家計支持者を対象に授業料等の減免措置を講じることにしましたので、お知らせします。

【支援対象】
①家計支持者が死亡または高度障害を負った場合、または家計支持者の事業に甚大な被害があった場合
②家屋の倒壊・焼失・床上浸水により半分以上が使用不可となった場合
③被害により学費の支弁が相当困難であると認められる場合
＊不明な点はお問い合わせください。

【在学生に対する支援】
被災した在学生には、被害の程度により学費等の全額または一部を免除します。その他、奨学金の相談も受け付けています。詳細は各キャンパスの学生課（学務係）にご相談ください。

【受験生に対する支援】
被災した受験生には、入学検定料を免除し、被害の程度により学費等の全額または一部を免除します。詳細は入試センター（☎03・5228・8092）にお問い合わせください。
※支援を受けるには「罹災証明書」等が必要です。

東京理科大学 ホームカミングデー2008 in 神楽坂キャンパス

11月3日（月・祝）10:00～17:00　参加無料・雨天決行

HCD HOME COMING DAY Tokyo University of Science

みんなでつくる新たな理科大ストーリー!

東京理科大学と理窓会（同窓会）は、11月３日（月・祝）第３回ホームカミングデーを神楽坂キャンパスで開催します。神楽坂は、102年前に本学の前身・東京物理学校が移って来た全同窓の“心の母校”。今回は地域の文化祭「神楽坂まち飛びフェスタ」にも協賛、粋な街の催しも合わせて楽しめる各種イベント（下欄）が用意されています。ぜひ、ご参加ください。

◆当日受付登録者（卒業生、教職員、こうよう会会員）には外れなしの福引抽選券を差し上げます◆

同窓歓迎式　学長、理窓会会長、同窓が集い、盛大に歓迎式典

●会場:5号館 B3F アリーナ　●時間:12:00～

記念講演

ノーベル物理学賞の小柴昌俊先生と数学者の秋山仁先生をお招きします。

【小柴昌俊先生記念講演】●会場:5号館B3Fアリーナ　●時間:14:00～
＊聴講は事前申し込み制です。

演題：「ニュートリノ、ニュートリノ、そしてニュートリノ」
＊小柴昌俊（こしば・まさとし）先生のプロフィール
1926年愛知県豊橋市に生まれ、81歳。東京大学理学部卒業、東京大学教授、素粒子物理国際センター長などを経て現在、財団法人平成基礎科学財団理事長、東京大学特別栄誉教授、日本学士院会員。仁科記念賞、ノーベル物理学賞など受賞

【秋山仁先生記念講演】●会場:6号館2F 624教室　●時間:15:10～
演題：“The good teacher explains, the superior teacher demonstrates, and the excellent teacher inspires.”

＊秋山仁（あきやま・じん）先生のプロフィール
1946年東京都生まれ、62歳。上智大学大学院理学研究科修了、理学博士、数学者。東京理科大学教授などを経て現在、東海大学教育開発研究所所長、NHKラジオ・テレビ講座講師、（財）平成基礎科学財団理事、（社）全国幼児教育研究協会理事ほか

お笑い演芸会

理科大卒業生（1987年理学部数学科）の桂歌助師匠＝写真＝をはじめ本学落語研究会やコミカルパントマイム「tyu-3」が抱腹絶倒のひとときを。
●会場:9号館5F 951教室　●時間:11:30～、13:30～、15:30～

同窓出会いの広場

事前に申し込まれた同窓のグループの方々を対象に軽食と談話の場をご用意。

お楽しみ福引抽選会 無料　素敵な賞品、空くじなし！

●会場:1号館玄関ホール　●時間:10:00～

Live & Stage

【祥子コンサート】理科大卒業生（1990年理学部数学科）である祥子さん＝写真。心温まるライブをご堪能ください。
●会場:5号館B3Fアリーナ　●時間:13:00～
【中国雑技ステージ】重ねた椅子の上での倒立など妙技。
●会場:5号館B3Fアリーナ　●時間:15:20～
【テキサスラングラーズコンサート】独特のカントリーミュージックを。
●会場:5号館B3Fアリーナ　●時間:11:10～
【東京理科大学管弦楽団コンサート】総勢60名以上が迫力いっぱいの演奏。
●会場:5号館B3Fアリーナ　●時間:16:30～

卒業50周年記念祝賀懇親会 招待制

卒業50年をお祝いして、昭和33年（1958年）以前に卒業された皆様をお招きし、旧交を温める懇親会。※該当される方々には招待状をお送りいたします。
●会場:研究社ビルB2F大会議室　●時間:14:00～

屋外イベント

もちつき大会、OB・OG&現役サークルの各種発表会、縁日など次々。
●会場:1号館前野外広場、7～9号館前野外広場　●時間:10:00～17:00

その他のイベントも盛りだくさん！

■産学連携展 ■大学歴史展 ■数学・授業の達人 ■サイエンス夢工房 ■サイエンス・ライブショー ■卒業20・30・40年懇親会 ■アートギャラリー ■囲碁と憩いの広場 ■神楽坂ツアー　など。

理窓会だより

大イベントに多くの参加を

幹事長　児島　紘

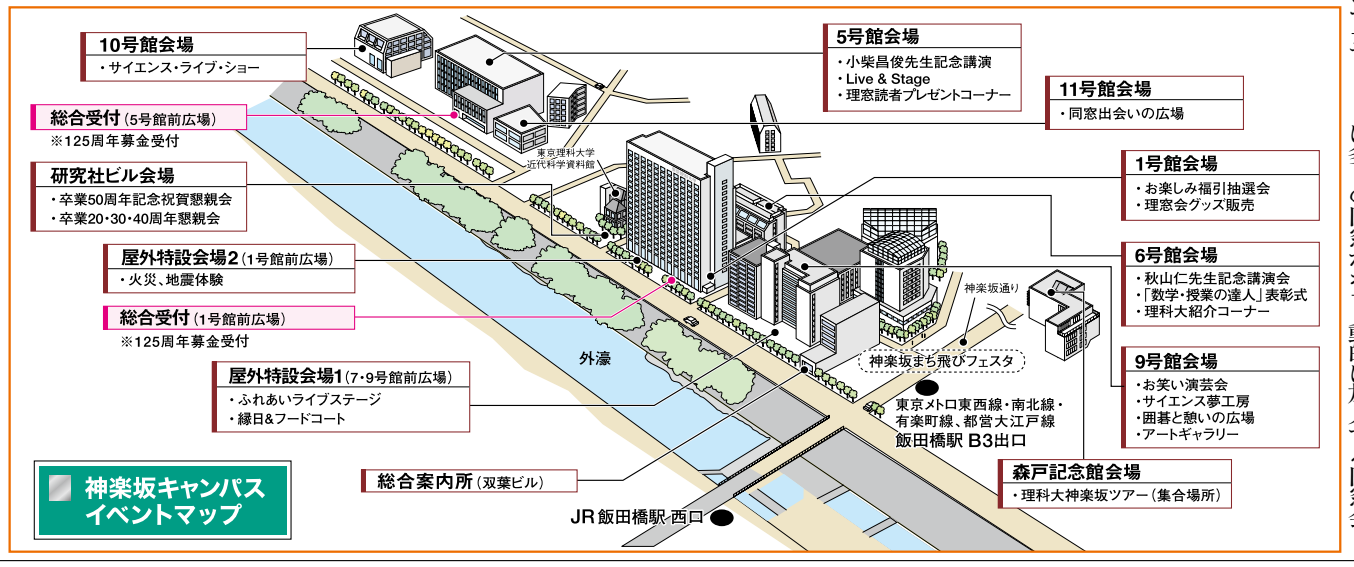
東京理科大学ホームカミングデーも本年で第三回目になり、開催場所を野田キャンパスから神楽坂キャンパスへ移し、十一月三日（月・祝日）に開催いたします。

神楽坂キャンパスは交通の便では申し分ないですが、大きな会場が準備できないという欠点があります。その欠点を補うため、多くのイベントを並列的に開催し、参加者は自分の好み、混雑具合を鑑みながら、各イベントに参加することになります。

特別企画として、ノーベル物理学賞を受賞された小柴昌俊先生とマスコミ界でもご活躍の秋山仁先生の記念講演があります。また、サークルの現役の学生やOB・OGが出演する発表会もあり、皆さんの同級生も参加します。詳細については学内に掲示するポスターや（本号掲載内容）をご覧下さい。

今回は卒業生の他に、教職員、諸君のご父兄、近隣住民の方々に呼びかけ、一大イベントを目指しております。また、今回から手作りのホームカミングデーをモットーに多くの同窓がボランティアとして、参加者のお出迎えに当たります。小柴先生の講演は事前申し込み制ですが、他のイベントは無料・参加自由ですので、ぜひ各イベントに参加して楽しむと同時に、先輩方のホームカミングデーを運営する姿をみていただければ幸いです。

＊理窓会：本学卒業生が自動的に加入する同窓会。



お問い合わせ　理窓会事務局☎03・3260・0725　E-mail：risokai@admin.tus.ac.jp